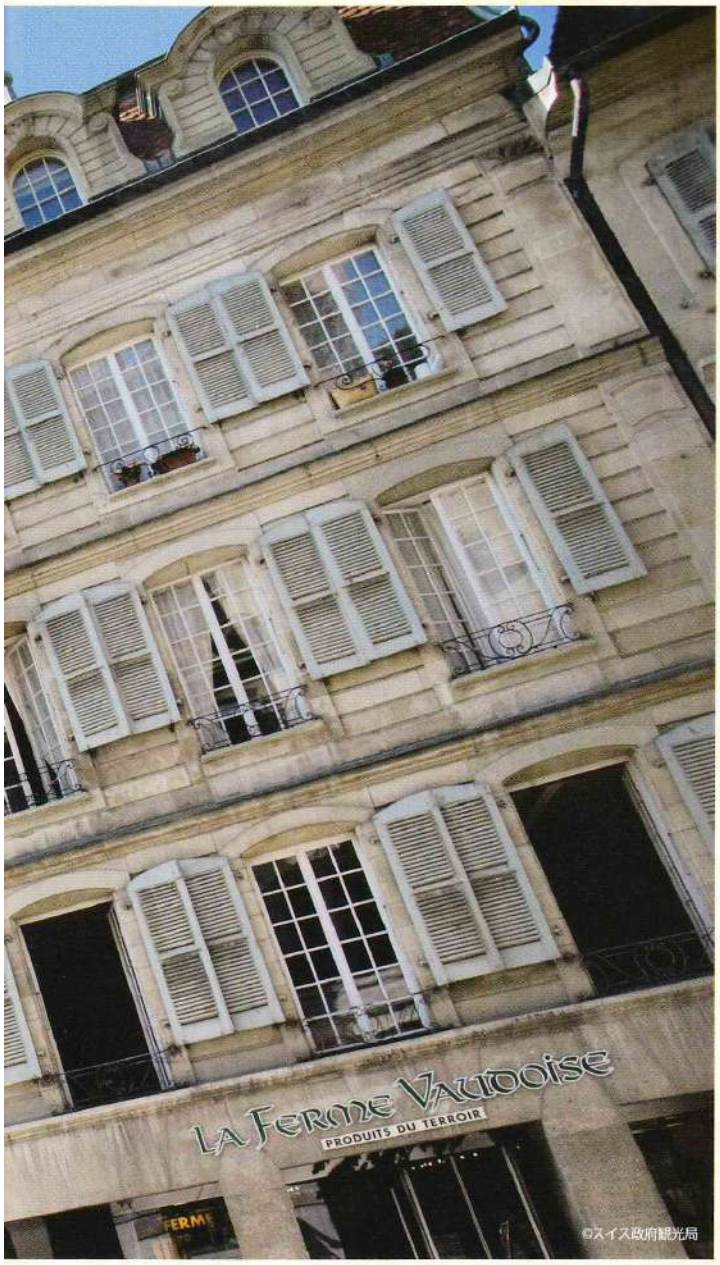
スイスの音楽事情とローザンヌ歌劇場

中 東生（音楽ライター・スイス在住） Shinobu Naka

スイスという国名から私達が連想するのは、アルプスの山々が代表する自然、永世中立国としての政治的立場、精密機械や金融に強いといった硬いイメージだろう。実際にその通りである。アルプホルンとヨーデルに代表される民族音楽が彼ら独自の文化であり、銀行員には驚くほど高給取りが多い。音楽家に対して「音楽をやっていることはわかったけれど、職業は何？」という質問が日常茶飯事なほど、『金銭的利益につながること』が大切な国だ。しかしそれが実は、無関係のように思える音楽界を発展させてきたのである。

自然に恵まれたこの小国は、昔から富裕層や著名な外国人音楽家を惹き付け、移住を決意させている。また、トーマス・マンなど療養のために滞在した芸術家も数々いる。その他、多くの国外逃亡者を受け入れた歴史もある。チューリッヒでヴェーゼンドンク夫人と出会って数々の名曲を残したワーグナーから、ローザンヌ歌劇場で世界初演された作品をもつストラヴィンスキー、第二次世界大戦中にナチスから逃げて来た多数のユダヤ人音楽家、そして現在でも、公平に名を挙げるのが困難なほど、著名な音楽家がスイスに居を構えている。その結果、高等教育で音楽を選択した生徒に、任意の楽器での個人レッスンが組み込まれるほど、音楽が身近にある生活が実現している。趣味で音楽活動をしながら、重要な仕事に就いている人も多いので、前述のような質問が出て来るのだ



©スイス政府観光局

スイスの主要な音楽シーンをざっと挙げてみたい。まずはオペラだが、主要都市はほとんど歌劇場をもっている。レパートリー制歌劇場としては、昨年待望の日本初公演を果たしたチューリッヒ歌劇場が群を抜いている。毎月新演出のオペラが披露され、世界トップクラスのオペラハウスと肩を並べている。そして祝祭オーケストラとKKLで世界に名を知らしめた小都市ルツェルンにも小さなオペラハウスがあり、首都ベルン、バーゼル、そしてザンクト・ガレンという大学街にも大規模なオペラハウスが存在する。時計産業で栄えたビールという小さな街にまで歌劇場があり、1995年ブザンソン・コンクールに優勝した阪哲朗が当時カペルマイスターを務めていた。スタジョーネ制歌劇場としては、ジュネーヴ歌劇場が独特のプログラムを繰り広げ、それに続くのがこのローザンヌ歌劇場といえよう。オーケストラの殿堂は、2年前に日本公演を行ったチューリッヒ・トーンハレ管弦楽団。世界に誇れる音色を持ち、その本拠地であるトーンハレは音響の良さでも有名である。スイス・ロマンド管弦楽団のレベルも高く、ローザンヌ室内管弦楽団とのコラボレーションも多い。その他、アヴァンシュ野外劇場やモントルー＆ヴヴェイ・クラシック音楽フェスティバル、メニューイン音楽祭、クラシック・オープンエア・ソロトゥルンといった数多くのフェスティバルや、オペラ・サン・モリッツ、ダヴォスのヤング・アーティスツ・イン・コンサート、小澤征爾が監督を務めるスイス音楽アカデミーまで数えると、この小国にどれだけの音楽的需要が詰まっているか計り知れない。

ろう。大手スーパーのミグロが文化振興に力を入れて数々のプロジェクトを発信し、UBS銀行がソル・ガベッタやパトリツィア・コパチンスカヤなどの若手アーティストをサポートしてもいる。そのほかにも個人財団が数多く存在し、楽器の提供や、音楽院で奨学金をかけたコンクールを行っている。各主要都市には音楽院もあり、チューリッヒ音楽院在学中でチャイコフスキー・コンクール優勝を果たした神尾真由子をはじめ、海外の様々なコンクール入賞者を輩出している。